

カルシユの足跡を追って

◇29◇

若松 秀俊

一九二五(大正十五) 葉はドイツ語だろうが、もできた。いよいよ分かる年、プラーゲは二期だ プラーゲに猛訓練されたからといっても、一週一いい。こうして先生とのことほすでに述べた。 時間の二期期間ではたか間に会話の道が開かれた。

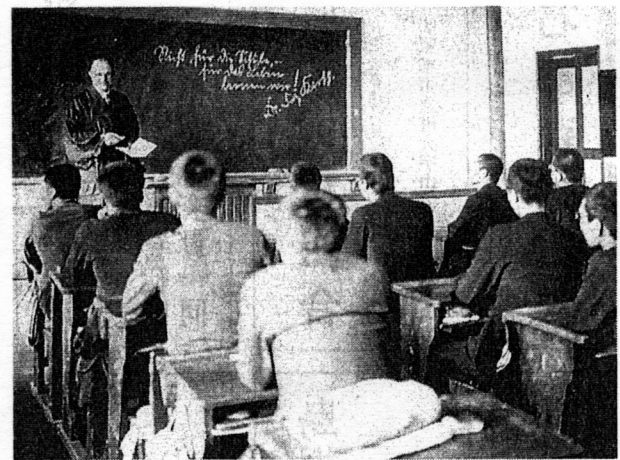
二期の初め、会話の 時間の教室でみんなが待 ぶんぶんかぶんぶん、日本語が分からないカルシユ任の高皇の後ろから背の 先生は立ち往生の格好に 高い偉丈夫がついて来 高。一諸君のドイツ語会 話を受けて持つドクター・カルシユです」とすぶる 簡単な紹介して、高皇 はすぐに教室を出てしま った。

ドイツ語の授業

(下)

後に残されたカルシユ 聞きなれない訛(なまり) があった、分かつらか ったが、それでもこれだ と中学時代の訓練が役に 立つ。聞き返したり質問

は、大きな身体を教壇に 運んで挨拶らしいことを 言うのだが、生徒にはと 立つ。聞き返したり質問 たら、身体も大きく強



カルシユの授業風景

温厚、親切なカルシユ先生

そんなこの後任の先生 面目さでも際立っている 人があった。 かつとみんな不安に思っ 一時にも満たない会 話の時間だったのに、先 生の思いやりの深い人柄 だった。当時、ドイツより 位を持つグループ チェ ンメン(歓迎) グラー

が、どんな強行をするの 人だった。 かつとみんな不安に思っ 一時にも満たない会 話の時間だったのに、先 生の思いやりの深い人柄 だった。当時、ドイツより 位を持つグループ チェ ンメン(歓迎) グラー

が、どんな強行をするの 人だった。 かつとみんな不安に思っ 一時にも満たない会 話の時間だったのに、先 生の思いやりの深い人柄 だった。当時、ドイツより 位を持つグループ チェ ンメン(歓迎) グラー

た。プラーゲとはまるで 違ふことに、みんな後に なるって感嘆した。これは 五期理乙の酒井勝郎の手 記から拾った出来事であ る。

また、開業医として長 くに地元へ尽くした坪内謙 吉(八期理乙)が、七十 余年前のカルシユの記憶 を二〇〇一年四月二十七 日付けの手紙で筆者に語 ってくれた。

彼が高校に入学したの は一九二八(昭和三年) であつた。ドイツ語を第 二について、生徒が「ピ ッテ、ローレイ」と言 うと喜んで教えてくれた し、その話を何回もして くれた。

一外国語とした者は、そ の大半が将来は官立大学 の医学部か農学部に行く ライン川にローレイの 岩を見て、坪内はカルシ ユを懐かしく思い出した という。

(東京医科歯科大学大 学院教授)

文中敬称略